

【戸塚区】令和 7 年第 1 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和 7 年 2 月 3 日 10 時 00 分 ~ 11 時 50 分
場 所	戸塚区総合庁舎 9 階特別会議室
出席者	<p>【座長】伏見幸枝議員 【議員：5名】鈴木太郎議長、山浦英太議員、中島光徳議員 坂本勝司議員、大和田あきお議員</p> <p>【戸塚区：23名】近藤武区長、増田政博副区長、 内田沢子福祉保健センター長、緑川斉福祉保健センター担当部長、 白井一彦土木事務所長、河野宏紀戸塚消防署長（災害対策担当部長） ほか関係職員</p>
議 題	令和 7 年度 個性ある区づくり推進費 戸塚区予算案
発 言 の 要 旨	<p>大和田議員：「災害に強いまちとつか」に向けた防災・減災強化事業の「管理組合・自治会向けマンション防災活動支援ガイドブック」の作成にあたっては、マンションごとに特有の課題があり、一律のやり方で進めることはできないと思うが、課題解決に向けてどのように進めていくのか。</p> <p>藤咲総務課長：マンションごとにその課題感も違うが、排水設備やエレベーターなどの共有設備が課題になってくる。ガイドブックではどのような課題を共有しつつ、既存の防災アドバイザー派遣事業を活用しながら個別の相談に応じていきたい。</p> <p>大和田議員：土砂・浸水災害時避難場所環境改善として整備する避難者用マットは、どの程度の避難者数に対応できるのか。</p> <p>藤咲総務課長：マットの購入は 60 枚を予定している。土砂災害警戒情報等発表時に開設される避難場所は 5 か所のため、1 か所あたり 12 枚になる。過去の避難場所開設の際に避難された世帯は 2 ~ 3 世帯のため、十分</p>

対応できる数だと考えている。

大和田議員：小雀みどり保育園付近の環状4号線は歩道が狭いうえに交通渋滞も増え、非常に危険という声をいただいている。また、戸塚小学校前の道も交通量が多く危険なため横断歩道が必要だと思うが、実地調査等の対応は検討しているのか。

森土木事務所副所長：現地確認を実施し、警察と調整してできる対策を講じていきたい。

大和田議員：東戸塚駅のホームドア早期設置に向けて、現時点での状況を伺いたい。

山内区政推進課長：ホームドアの設置に関しては、JR東日本が2031年度頃までに東京圏在来線の主要路線駅に導入することを目標に進めていると聞いている。東戸塚駅では2026年3月末の予定でホーム改良工事が進められているが、ホームドア設置の工程を示すのは現時点では難しいと聞いている。引き続き1日も早い設置を実現できるよう今後も継続的にJRに要望していく。

大和田議員：大阪、神戸の方では、上下するロープ式など少し簡易的なホームドアもあるようなので、一日でも早く設置するために検討してもらいたい。次に戸塚駅の再整備について、障害のある方からエレベーター1台では少ないという意見をいただいている。2025年度からの要望等を意見集約すると思うが、優先度を踏まえて検討していただきたい。

中島議員：ホームドアの1日も早い設置を区役所としても強く要望していただきたいが、区長の考えはどうか。

近藤区長：実際に東戸塚駅の朝の状況を視察し、ホーム中央の歩行通路が並ばれている方で塞がっている状況を確認している。視覚障害者の方などの支障にもなり、安全上課題もあるので、JR東日本に対して都市整備局とともに早期設置に向けて働きかけていきたい。

中島議員：前回の会議で東戸塚駅前ターミナルの一般車乗降レーン混雑緩和に向け、タクシーレーンの活用を要望したが、状況を教えてほしい。

山内区政推進課長：タクシー協会らと協議したが、1日の需要に対応する待機スペースの確保、また電車運行に支障があった場合の有効な代替手段になることから現状維持を希望する旨の回答をいただいている。現状では一般レーンで必要以上に長く停めている車も散見されるため、まずは利用に関する注意喚起などをしていく必要があると考えている。また、公共性のある送迎バスが一般車乗降レーンを利用している状況も確認しているので、タクシーレーンの後方で乗降できるようにするなどの調整を図り、現状の混雑緩和に向けて取り組んでいきたい。

中島議員：介護車両など安心して送迎ができるよう、福祉的な部分も考慮して検討していただきたい。次に「戸塚駅周辺地区住み続けたいまち・みちづくり連絡協議会」が一区切りとされたが、残された課題箇所は今後どうしていくつもりか。

山内区政推進課長：改善が図られていない部分や完全に解決することが難しい部分、取組によって新たに発生する課題など様々だが、案件に応じて地域の皆様や関係者及び利用者の方々の協力を賜りながらしっかりと取り組んでいきたい。

中島議員：交通課題箇所改善検討事業の予算はどのように使うのか。

山内区政推進課長：現状分析のための交通量調査費として計上している。調査で得た資料を基に信号表示等の改善策について警察と協議していく考えている。

中島議員：改善後の効果測定もしっかりと行って数値化していただきたい。次に、地域交通は市の来年度予算に大きく計上されている中で、交通空白地域が一番多いのは戸塚ではないかと思う。今後の取組として区づくり推進費の活用も必要かと思うが区長の考えはどうか。

近藤区長：戸塚区は、鉄道駅から800メートル、バス停から300メートル

の圏外にある一定規模の交通空白地域が 18 区中で一番多い 10 か所程度あるのが現状。これまで、こすずめ号、ひがまた号と区として取り組んできたが、これまで以上に都市整備局と連携し、より多くの路線で地域交通が図られるように進めていきたいと考えている。

中島議員：地域交通については、買い物バスの廃止や病院の送迎バスの減便という話がある一方、新たな送迎バスの話も聞いている。これらの交通資源との連携も今後は必要になってくると思うので、都市整備局ともやり取りしながら進めさせていただきたい。

次に、防犯力強化の取組として、各町内会に補助率 90%、20 万円を上限とする緊急補助金の予算が令和 7 年度予算案に計上されているが、どのような取組が効果的なのか悩む地域もあると思うので、区としてもしっかりとフォローをしていただきたい。

竹内地域振興課長：これまで戸塚区では区づくり推進費を活用して、自主的に防犯力の向上を目指す団体への補助金交付を行っている実績がある。来年度の緊急補助金についても、窓口での相談対応など、しっかりと支援していきたいと考えている。

中島議員：「管理組合・自治会向けマンション防災活動支援ガイドブック」の作成にあたっては、内容についてやりとりをさせていただきたい。また、土砂・浸水災害時避難場所については、地区センター等の小規模なところのほうが安心できる。一方で小中学校の体育館などでは広いところに少人数で長時間避難することになるため大変であり、検討が必要では。

藤咲総務課長：避難所は小中学校と地区センターなどが混在をしていて、地区センターは和室などを使うケースが多いが、小中学校は武道場や体育館がメインであり、環境の違いは確かにある。ただ土砂災害警戒情報が発表された時に即時避難をする避難場所は、より近いところを第一に選定をしているため、まずは避難場所の環境改善を中心に検討させていただきたい。

山浦議員：共同親権に向けての体制作りについて、こども青少年局が制度の案内を目的としてリーフレットなどを作成し、周知啓発することになつ

ているが、区役所はどの程度理解しているか。

鋪こども家庭支援課長：リーフレットで親権・監護、養育費、親子交流等についての取り決めや利用できる制度の案内を目的として作成するということは聞いているので、区でも周知していく。区役所にご相談があった場合にはリーフレットをお渡しするとともに必要に応じて法律相談なども紹介していきたい。

山浦議員：こども青少年局から、区職員向けに面会交流について講師などを招いて研修していくと聞いたが知っているか。

鋪こども家庭支援課長：具体的な内容はまだ聞いていないが、職員向けの研修を計画していることは聞いている。積極的に職員を研修に参加させたい。

山浦議員：研修だけでなく、区においてもこの共同親権に向けての取組姿勢が非常に重要となる。当局からの指示を待つだけではなくて区も相談窓口の設置に向けて取り組んでほしい。

また、男性の生きづらさについて、男女共同参画センター横浜フォーラムでは、相談の9割が女性で男性は1割しか相談していない現状がある。次年度から男性専用の窓口が男女共同参画センターに設けられるということもあり、区局連携して取り組んでほしい。この男性相談窓口については区としてどのような見解を持っているか。

鋪こども家庭支援課長：現段階ではまだ具体的なことは局からは聞いていないが、こども家庭支援課に相談があった場合は状況をきちんと把握し、必要に応じて局へ伝えていく。

山浦議員：中高年の引きこもりなどは男性がほとんど。これらは男女共同参画センターの男性相談窓口だけでは対応しきれないので、区も意識をもって取り組んでほしい。

坂本議員：駅のホームドア設置については、車両の問題もあり、戸塚駅や東戸塚駅は京浜東北線の駅よりも後になると聞いている。そのなかで先ほ

ドロープ式のホームドアの話が出たが、子どもがくぐってしまうと保護者が引き戻しにくいという課題もあるため、安全性の高いホームドア設置をお願いしたい。

また、自治会町内会について、連合町内会に加入していないマンション単位の自治会町内会はいくつあるのか。

竹内地域振興課長：数は手元にないが、そういった自治会町内会があることは把握している。

坂本議員：今後も戸塚駅周辺では大規模マンションの建設が続く。最近のマンションは免震性も高く、避難場所のひとつになると感じている。しっかりとマンションと連合町内会が連携の取れる町内会のあり方を検討してほしい。

区の施策を進めていく上で、まちの安全性の面からも警察との連携は重要。戸塚区議員団会議で構わないので、警察の会議参加を促してほしい。

近藤区長：警察の方にも話をし、今後のあり方について検討をさせていただく。

坂本議員：次に、防犯力強化事業の「わんわんパトロール隊」のリードや、ランニングパトロール用Tシャツの配付先はどのような考え方で行っているのか。

竹内地域振興課長：応募いただいた個人に配付している。

坂本議員：「わんわんパトロール隊」などの広報については、ペットショップなどペットを飼っている方などが普段行く場所に情報を掲げてほしい。また、マンホールカードについて、戸塚では箱根駅伝をデザインしたものがあるが、どこで入手できるのか。

白井土木事務所長：箱根駅伝をデザインしたマンホールカードの作成の情報は聞いているが、詳細はわからないので調べさせていただきたい。

坂本議員：戸塚大踏切の先の信号機のない横断歩道について、その付近に

大型マンションが2つ建設される予定があり、通行車両の増加による渋滞や事故発生の懸念がある。この横断歩道の移設もしくは信号機設置は可能か。

山内区政推進課長：戸塚警察署とも相談しているが、地下鉄利用者の利便性から横断歩道の撤去は難しく、戸塚駅西口交差点の信号との距離も近いことによる信号の見逃しなど、新たな交通課題が生じることが考えられるため、信号機の設置は望ましくないという話を聞いている。ただし、課題感は強く持っており、継続的な協議は今後もしていく。

坂本議員：積極的に警察と協議していただくようお願いしたい。

鈴木議長：「管理組合・自治会向けマンション防災活動支援ガイドブック」について、作成にあたっては東日本大震災や熊本地震など全国の事例を参考に、具体的な被害状況や事前の備えなどを共有してほしい。例えば統一された見解がないトイレの排水問題についてもしっかりととした見解をこのガイドブックで出したほうがよい。

また、大規模マンションにあるエキスパンションジョイントが損傷するとそこで断絶が起きてその先へ行けなくなる。さらに、玄関の扉が開かなくななり鍵がかけられなくなることもあります。そういった課題をきちんと共有してほしい。

次に戸塚区ゆるやかな見守り推進事業について、実際に通報時の対応結果など、地域がどのような状況になっているのかわからない。通報件数の増加に伴いケアプラザの負担も増加しているなか、事業の効果検証が必要と考えている。まずは地域の状況を市会議員会議の資料にしてほしい。

小栗高齢・障害支援課長：通報件数が年々上がっているなかで、協力事業者等と連携し、いかに早く対応するかが重要と考えている。課題として受け止め検討したい。

鈴木議長：柏尾川桜並木保全・再生事業は戸塚区の一大事業だと思うが、クラウドファンディング、ふるさと納税が目標金額に達しなかった場合は植え替える桜の本数が減るようなことはあるのか。

山内区政推進課長：集まった金額で詳細な設計を行うため、最終的な植栽や伐根の本数が変ることはあり得る。一方、エリア全体を同時に着手することは難しい。見栄えも考慮し優先順位をつけ、土木事務所と相談しながら実施していきたい。

鈴木議長：これは区だけではなく我々も一緒にやるべきだが、自主企画事業の予算項目を見る限り、PR・広報のマーケティングだけでどうやって目標金額を集めのかが抜けている。一年前に企業リストを作るよう言ったと記憶しているが、営業計画を作り、行政の感覚を超えていくことをしなければならない。

近藤区長：企業100社リストを作り、これまでに約60社に営業をかけた。市外の企業からはぜひ協力したい思いはあるが、企業版ふるさと納税となると、本社に持っていくなければならない、本市ではGREEN×EXPO 2027の協賛金にも力を入れており、時期が重なるため企業としてどちらを優先させるべきか、などの声もある。これまでには口頭でのお願いだったが、これからは計画を示しながら営業していきたい。ジャストアイデアだが、先ほど坂本議員からも話があったマンホールをTシャツにして返礼品にするなど、返礼品の魅力を増し、市外の方にも御寄付いただけるよう、職員一丸となって取り組んでいく。

鈴木議長：桜並木保全・再生は戸塚の名所として区内はもちろん区外の方も親しめる場所として育てることを目的としている。単に植え替えて綺麗にするだけではなく、例えば区役所前の歩道のスペースなど公共空間を活かして民間に事業をしてもらうことや、ベンチをきれいにしてもらう、夏にはパラソルを用意してもらうかわりに営業できるようにするなど、民間を含めた活用が弱い。周りの空間を生かし、賑わいを創出するような計画であれば寄付も集まりやすいのではないか。

次に、区の職員数について、会計年度任用職員も含め500人以上が働いているとのこと。今後のDXを考えると区役所の人員をどれだけ圧縮していくのかがテーマとなる。例えば税務課などはDX化の余地が相当あると思う。全体としてどれだけ生産性を効率化できるか、区長のマネジメントとして考えていかなければならぬし、区から局へどんどん提案していくべきと考えるがどうか。

近藤区長：総務局、市民局で区のあり方を検討している中で、当然DXによる効率化も検討の俎上にあがっている。区としては、効率化により生み出された資源を福祉分野などより人員が必要なところに回すなどして、より良い市民サービスを行っていきたいという想いがある。DXにより効率化が見込めるものについては積極的に提案するとともに、人員が必要な分野への配置についても意見を言っていきたい。

鈴木議長：継続的にお願いしたい。次に東戸塚駅についてはホームドアもだが、まず駅を綺麗にするよう伝えてほしい。

山内区政推進課長：埃が目立つ箇所もあるということで、今年度も区役所からJRの駅長に清掃のお願いはしているが、高所作業になるため直當作業が困難であることや予算の関係からすぐに対応は難しいという反応だった。少しでも話が進むように今後も継続して伝えていきたい。

近藤区長：私からも機会を捉えて伝えていきたい。

大和田議員：最近、地域の方からごみ置き場について相談を受けている。例えば段ボールを束で勝手に置いたり、生ごみを前日に置いたりするなど、ごみ置き場のルールが問題になっていて、周知がされていないのではないかと推測される。そのため掲示板などを設置してほしいが、予算の関係も含め対応の相談はできるのか。

志田資源化推進担当課長：ごみの集積場所の管理については、地域の皆様に管理をしていただいているが、地域にお住まいのない方がそこにごみていくなどのご相談も、収集事務所に来ている。ご相談いただければ資源循環局戸塚事務所の予算で改善に向けた対応を検討したい。

伏見議員：地域防災拠点のペット同行避難に関して、戸塚区としてどのように考えているのか。

齋藤生活衛生課長：戸塚区ではペット同行避難のために、各拠点にペットの一時飼育場所を設け、飼い主が協力しあって管理をするという考え方で進

	<p>めている。3年前のデータだが、戸塚区35拠点中17拠点が一時飼育場所の設定をしている。</p> <p>伏見議員：歴史を生かしたまちづくり事業の重ね押しスタンプはどこで活用する想定か。</p> <p>山内区政推進課長：まだ検討中だが、区のイベントなどで戸塚の歴史や戸塚宿の雰囲気を味わってもらえるよう活用したい。管理上の難しさはあるが少しでも楽しんでもらえるよう考えていきたい。</p> <p>伏見議員：すごく良い企画だと思うので、ぜひ素敵なスタンプになるようにやっていただきたい。</p> <p>とつかブランド向上事業の簡易野菜栽培キットはどのようなものか。</p> <p>山内区政推進課長：例えば机の上でイチゴやミニトマトなどを栽培できるような手軽でコンパクトなものを考えている。野菜を育てる楽しみを知ることで、地産地消に关心を持つてもらいたいと考えている。</p>
備 考	